

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	13 危機管理（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	13.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。	
要素		

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大学が管理すべき危機を整理検討し、危機管理を全学的体制でおこなうための基本方針を策定する。	→危機管理基本方針の策定及び公表	B	B			
2. 基本方針にもとづいて、全構成員の日常的な危機管理意識を醸成するための研修制度を整備する。	→危機管理のための研修・災害にそなえた訓練への参加人数	C	C			
3. 感染症の被害を最小化するための機動的な組織体制を整備する。	→感染症対策のための一元的な組織の設置	B	B			
4. 自然災害、特に地震にそなえて建物の整備・点検を行う。	→耐震性または耐震改修された建物の割合（2009年度末までの耐震化率は52.6%、2010年度計画完了後は57.9%：ただし、1981年の新耐震基準以前の耐震改修必要とする上ヶ原キャンパス内の建物（解体予定の建物を除く）に対する、調査・概算の結果、耐震補強が不要な建物及び耐震改修済の建物の割合による。1982年以降の建物は含まない。）	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目 13.0.1	13.0.1 危機管理の体制を適切に整備しているか。 (説明) 現時点における危機管理の全学的体制づくりについては、個別対応の必要に迫られる形となっており、包括的な体制構築には至っていないが、いくつかの点で体制が構築されつつある。 1. 上ヶ原キャンパスの防犯・防災体制に関しては、2012年度からの高中部共学化等をにらみ、警備体制の見直しの提案が行われた(2010年10月、法人執行部会) 2011年度の防犯設備の工事申請や、2012年度からの警備態勢等に関する提案がなされたところである。 2. 緊急事態や不祥事等の広報に関しては、2011年4月の広報会議において体制が決定されている。
	その他

《評価指標データ》

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 13.0.1	
その他	

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 13.0.1	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 13.0.1	
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 13.0.1	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

その他 (自由記述)	
---------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○危機管理の全学的体制づくりについては個別対応とのことですが、大学として取組を行うのであれば、東日本大震災の教訓を得られる、この機会にしかないのではないのでしょうか。学生・保護者・マスコミ等からの問い合わせに全学的に一元的に回答ができる体制の構築が早期に望まれます。特に関西学院大学は災害復興制度研究所等を持ちマスコミからの注目も高い大学であり、危機管理(=安全・安心)を大学の「売り」にしていくことが必要ではないのでしょうか。

○研修についても各職員の意識の高いうちに、なにかの効果的な仕組みを導入することが重要であると考えます。

【学内委員】

○危機管理を行う全学的な体制の整備は必要なことであり、不断の努力が求められます。ただ、危機管理が周知の概念のように用いられていますが、リスクマネジメントとの混同を避けるためにも、ここでいう危機管理が何を意味するのかということを確認することも必要ではないのでしょうか。

○東日本大震災のあった折りであり、危機管理の全学的体制づくりの進展が期待されます。

○昨今の状況を鑑み危機管理ではなくリスクマネジメントの基本方針を策定し、全学的なリスクマネジメント体制の整備が望まれます。

○本項目における課題は、包括的な体制構築をはじめ多いのではないかと思います。改善すべき事項はないのでしょうか。

○昨年度記述のあった「学校において予防すべき感染症」については、原案は作成されたのでしょうか。昨年度の活動を検証することでPDCAサイクルが機能しているか確認することができます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・危機管理について、今日的なリスクマネジメントの基本方針の策定が望まれます。

・着実な体制整備が期待されます。

・危機管理は、大学を取り巻く状況を考えれば早急な全学体制の構築など対応が必要でしょう。対応を誤れば大きな代償を払うことにもなります。

・全構成員の危機管理意識を醸成することが重要です。

・自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、現状説明は目標にも触れながら、もう少し説明をお願いします。

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

追加記述なし。

☆	
---	--